

小山剛さんの訃報について (2015.3.18 UP)

ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟

理事長 高見 優

昨年6月のフェスタでご講演いただいた小山剛さんが、3月13日逝去されました。ご冥福をお祈りします。

当生協創立の動機にも影響力のある地域福祉事業の在り方を提唱され、小規模多機能型居宅介護事業が開始されると全国組織を樹立するなど、また中越地震や東日本大震災時に先頭切って被災者支援活動を始め、それを継続するシステムまでも構築されました。

高齢協連合会の2014全国総会の一環として、連合会会員の役職員（組合員）のほか、当生協の役職員・組合員はもちろん、地域住民や他団体・関係機関にも広く呼びかけて「新潟フェスタ」を開催した意義は大きいと思っています。

私としては、超多忙中と知りつつ無理して新潟フェスタの講師をお願いし、高齢協の仲間をはじめ多くの皆さんに話をさせていただく機会を持って本当によかったと思っています。小山さんのお仕事から学んだことをしっかりと受け継いでいきたいものです。小山さん、ありがとうございました。

<小山さんのこと：高見>

小山さんは、2/7の新潟県小規模多機能きやたく介護事業者協議会の介護制度改定問題研修会で報告され、久しぶりにお会いし激ヤセされていたのでギョッとしました。

2/28の「老年問題セミナー2015」（長岡）は主催者であり、また報告予定者でありながら欠席され、代理して報告した吉井さんが途中涙目で声を詰まらせたのを見て、私は予感していました。

<大熊由紀子さんメールより> (大熊さんの了解を得て公開します)

ご本人は「ただの腰痛」と思っていたのですが、余りの痩せようと顔色にまわりの人が心配し、2月17日、しぶしぶ病院へ。その場で余命1～2カ月と知らされました。病名はすい臓がん、それも他臓器に転移し末期症状。この日は剛さんの誕生日でした。

20日までに、仕事関係の整理をすませ「かえりみなかった家族と過ごすつもり。手術も抗がん剤治療も間に合いませんので、自宅でその日まで前を向いて生きていきます」とのことでした。

以下は2月21日発のメールです。

お聞きおよびのとおり、まさか〜の状態になっております。不摂生とか働き過ぎとか言われるのですが、これは見つかった時に手遅れがわかるという予測不能な疾病らしいです。幸いにも性格が後ろを向かないタイプですからなんとかなっています。小規模の創設、楽しかったですね〜、毎日がドキドキワクワクの楽しいチャレンジの連続でしたし、本当に素晴らしい仲間たちとの出会いに感謝・感謝です。

「みんなでいい事を言いながら赤字に苦しむ会」なんて、そうそうありませんよ。でも、つよがりとかやせ我慢のおかげでこんなに広がりましたし、これからも中心になる素晴らしい事業だと思います。私はもう活動できませんが、その分皆さんが活躍していただけるものと期待しています。

本来であればこれでもかと深酒をしてきたこちらからあいさつに伺わなければなりません、それもかないませんし、体力がもちそうにもありませんのでメールで失礼します。みなさんの優しい気持ちを大切にその日が来るまで前向きに生きていきますのでご心配なく。素晴らしい仲間たちの事は忘れません。本当にありがとうございました。